

産地戦略

実施期間 令和6～10年度

実施主体 さいたま市施設トマトグリーン栽培協議会
 都道府県 埼玉県
 対象地域 さいたま市
 対象品目 施設大玉トマト



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

さいたま市は、都市近郊という地理的利点を生かし、直売所販売を中心とした施設トマトの栽培が盛んに行われている。消費者と触れ合う機会が多く、消費者の食の安全へのニーズの高まりを受け、安全安心な低農薬での栽培を求められることが多くなっている。また、生産者の高齢化等により、夏場の重労働である土壌伝染病害虫の防除対策の土壌くん蒸剤の処理が難しくなっていることが地域の課題である。

そこで、化学薬剤を使用しない土壌還元消毒技術である糖含有珪藻土を利用した栽培法を地域で確立することにより、化学薬剤の使用頻度を減らし、環境への負荷や使用者への影響を少なくするとともに、マニユアスプレッド等の導入により、作業時間の削減を目指す。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業	栽培・収穫		栽培終了	土壌消毒		定植		栽培・収穫					
化学農薬を使用した土壌消毒・手作業での防除対策				←→									2～3週間程度 ダゾメット粉粒剤

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業	栽培・収穫		栽培終了	土壌消毒		定植		栽培・収穫					
糖含有珪藻土を使用した土壌還元消毒・マニユアスプレッド等での資材散布				←→									散布（7月以降）から1ヶ月程度

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R5		目標R10	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	1.23	▶	1.23	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.25	▶	0.49	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0.25	▶	0.49	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0.25	▶	0.49	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	土壌消毒資材としてダゾメット粉粒剤を主に使用	▶ 糖含有資材による土壌還元消毒	環境への負荷や使用者への影響、臭気の発生等の削減
環境	手による散布	▶ マニユアスプレッダ等による散布	作業時間の低減

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	土壌消毒資材（化学農薬）の使用回数（回）	1	▶ 0	ダゾメット粉粒剤1→0回 化学農薬から土壌還元消毒剤への切り替え
省力	土壌消毒資材の散布時間（分）	102	▶ 62	機械散布：2.24分/1袋 手散布：3.67分/1袋
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

・さいたま市が糖含有資材導入に対する補助を行うとともに、さいたま市、さいたま農林振興センター、J A等の関係機関が一体となり、情報提供及び技術指導を行う。

関係者の役割

関係者名	さいたま市	さいたま農林振興センター	J Aさいたま	
役割	・糖含有資材導入に対する補助 ・情報提供	技術指導	技術指導	

その他